

令和2年度海底ごみ実態調査の結果（概要）

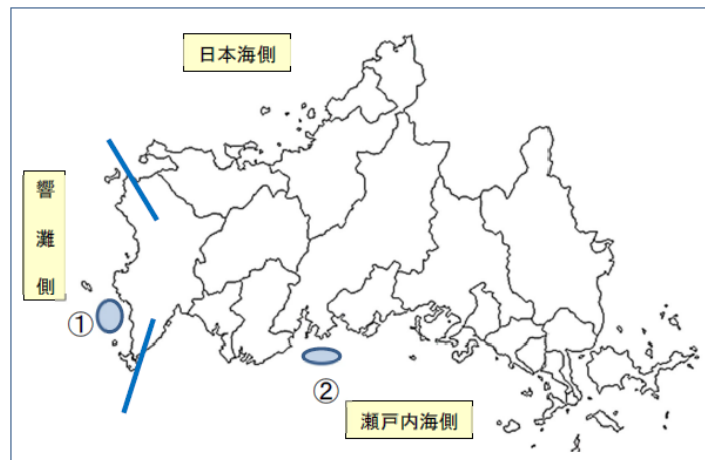
県内の海底ごみの回収処理体制を構築するために、海底ごみの組成調査を実施

【調査時期】 8月～10月のうち2か月間（夏季）

【調査地点】 2海域

【調査結果】

- ・両海域でプラスチック及びその他の人工物の割合が高かった。
- ・響灘側は、生活由来のポリ袋やボトル等のプラスチックの個数が多かった。
- ・瀬戸内海側は、重量・容積の大きい漁業由来のプラスチックや金属、自然物である流木等が多かった。
- ・両海域の総重量に差は見られなかったが、1操業当たりや清掃海底面積当たりの重量は、瀬戸内海側の方が大きかった。
- ・両海域の総個数は、響灘側が多く、1操業当たりや清掃海底面積当たりの個数も響灘側が多かった。



響灘側

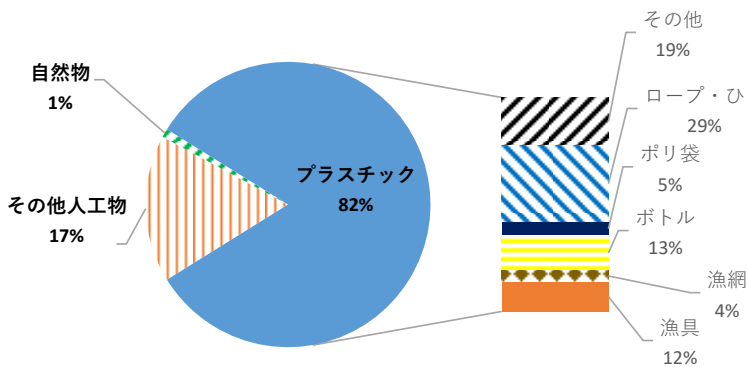


表 海底ごみの重量及び個数

海域	総数	1操業 当たり	km ² 当たり
響灘側	72.4 kg 330 個	1.8 kg 8 個	19.2 kg 88 個
瀬戸内海側	69.0 kg 81 個	3.0 kg 4 個	50.4 kg 59 個

瀬戸内海側

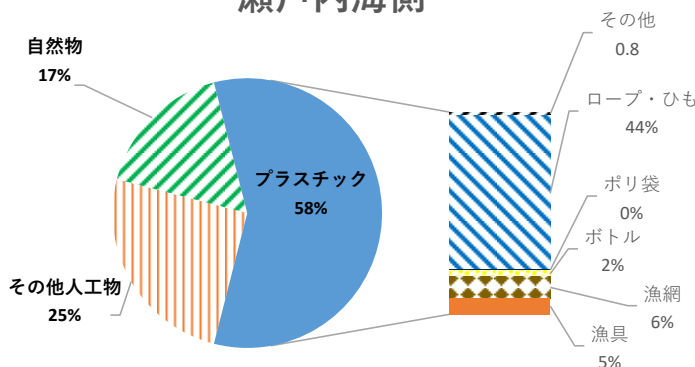


図 海底ごみの組成（重量）